

911.3
レ
中

園

塔

集

中

之ヲ物

寄哉

夕月^{子ム}ノ影ノ姿ヤモ 芝草

婕^{セウ}婦^ヨノ心^{ナリ}ヲ捨^{ナリ}テ 秋^ノ里^ノ常

高^ノ世^ノヲシテ乃^ク高^クスル^ニシテ 秋^ノ里^ノ常

夕月ノ影ノ姿

高^ノ世^ノヲシテ乃^ク高^クスル^ニシテ 秋^ノ里^ノ常

夕月ノ影ノ姿 秋^ノ里^ノ常

夕月ノ影ノ姿 秋^ノ里^ノ常

天^ノ鳥

句當乃梅うかしくさるる系 五凡

五月句や井のさるる 西里急

系さるるさるる 西海

同 中村

さるるさるる 已發

系さるるさるる 部云

さるるさるる 文律

神の梅さるるさるる 北川

名録

風や梅とさるるさるる 楓子

系さるるさるる 其因

川路やさるるに集るる 北川

子日瘦く様や野分の 文律

系さるるのさるるさるる 佳夕

同新 上所

短音行 一折

故きくちた 修ん 星うや小 穰雨

水 露し 穰く きくく 一ツ 家

世 修の 連ふ あく 一う あり

一 壺 ふきき 余 今 あり

待 きふれ 穀ハ きくく 根の上

田 旁の 所り 草 藜 乃 意

振 種 乃 鹿の子 小 娘 入 似 ころよ

子 混

艾 凡

古 繡

輝 流

喜 湖

可 悠

外 漢の 説た 昔 家 ころころ

五 十里 小 不 ころ ころ け ころ ころ

言 ころ ころ 延 ころ の 以 代 ころ ころ

癩 瘡 神 乃 初 ころ ころ の ころ ころ

本 の 芽 ぬ 白ん 粉 の 声

各 録 ころ ころ ころ ころ ころ ころ

ア たり ころ ころ 移 の 木 葉 や 野 花 あり

誰 啼 ころ ころ や 草 丈 の び ころ ころ

艾 陽

其 真

桐 也

墨 泉

桐 也

輝 光

司召か〜これと〜さ〜 松原

塔ヨハニ小〜なま〜と〜 倉竹

翔日〜ハ〜ふ〜 扇菱

鬼名〜れ〜と〜の〜 己正

雨〜と〜作〜た〜 有隣

河内か〜ら〜の〜 其山

奇〜れ〜と〜築利〜ら〜ハ〜 又依

在〜長〜と〜乃〜 為泉

あ〜少〜と〜法〜と〜乃〜と〜 吳川

〜と〜は〜の〜ま〜に〜 杜流

各條

態〜物〜や〜情〜を〜 子光

と〜寺〜や〜事〜と〜あ〜と〜 杉家

せ〜信〜と〜あ〜れ〜信〜の〜ま〜や〜 有隣

ほ〜〜と〜あ〜れ〜れ〜と〜や〜 己正

瘦馬に〜大〜根〜竹〜 倉竹

小川の写しはさきも小川哉 其山

きりぎりすのやまや赤いけり 女流

てうきとさきとありや梅の虫 路泉

大せうもあつきの伽やまの柳 吳弁

あまのあまをあまのけいりれ 扇夏

の寺やまのけいりれ 書院之 松原

同

こつ物

鱗之

梅 花の月れいさる

谷 けいりれ 舞子の一声 十羅坊

舞 舞のあまのけいりれ 白珍

各録

梅のあまのけいりれ 十羅坊

梅のあまのけいりれ 白珍

同

下田 間崎

土佐の海果はあつらふ言ひ

海果はあつらふ言ひ

嫁はくハ海果はあつらふ言ひ

板はくハ海果はあつらふ言ひ

丁金の声はあつらふ言ひ

鳴る狐のむねはあつらふ言ひ

位はくハ海果はあつらふ言ひ

柳宇

樵父

為秀

二好

李十

顯翠

千里

陰末

李翁

之圖

文地

不毛

琴糸

芦仙

ゆめいそれハましく ちか 三巴

後 扱も 五十年 ぬりこえ 遠し 如涼

名録

そめいこのんく ちかや 山はく 芝仙

沖原に ちか乃 けさく 初 之系

櫛カハシのきりく ちか乃 やり 月 李十

舞カハや 母子の ちか乃 舞の 栗 二好

舞カハのちか乃 ちか乃 やり 柳宇

いけいのおまに ちか乃 除生

而まに けさく ちか乃 如涼

ちか乃 ちか乃 ちか乃 琴糸

ちか乃 のちか乃 ちか乃 ちか乃 三巴

世のちか乃 ちか乃 ちか乃 文池

同

懐多上中節

六句

一亭

揚ヤ梅メや ちか乃 ちか乃 威さく

夏にふかき女唯れ
仙子

膝の清く同もくねの明て
里に

目も交さる乃食とあし
百和

遠くをいへ狗のこも月こ
柳下

中級ほめあかきよし
其日

名録

酔は免の多知し時や
其日

行水まゆらふま
正和

戸の雨一流あ物や苔は水
柳下

都と啼く琴柱の傷れ
里に

多の柳や雨しあふしぬ
仙子

月
字依

八月暮
日和房

梅くハ
あふ月

泳き
皆可

〜た
蛙兄

十とあるあまういむういしんを 其外

入るまゝのしんく又建り修の義 蘭和

持くくまぬ人のも致 和

母親の気な合つものと茶 和

一鶴しかーけり音乃并に 雨夕

各録

強よのねまいたまははは 皆可

きりのきしおあれたるをすま 鞋兄

坊鞋アケの脂アフラを〜〜〜 翠月雨 茶和

猪の鼻ゆ〜〜〜乃尾ぶ〜 和青

痛〜〜〜 移れぬや何〜 雨夕

糸土の声の〜〜〜乃翁 福時 其外

〜〜〜 名物義や若のい 早和

同 西野地

八句表

三四

子のく知ろ〜〜〜おの〜〜〜

坊^{カケ}鞋^{アフラ}の脂

〜〜〜

茶和

猪の鬃^{ウヅ}ゆ〜月乃尾^{ツノ}ふ^シぬ^ル

松青

麻^{アサ}〜ゆ^ク移^{ウツ}れ^ルや^シ時^{トキ}〜

雨夕

糸^{イト}土^{ツチ}の^ノ声^{コエ}の^ノ〜[〜]乃^ノ翁^{オウ}

福時

其外

よ^カか[〜]〜[〜]名^ナ姓^{セイ}義^ギ也^ヤ若^{ニシ}の^ノい^い

早和

同

西野地

八句表

三四

字^ジの^ノ〜[〜]知^チり[〜]〜[〜]ぬ^ルぬ^ルぬ^ルぬ^ル

海
之出

如子夕ニ中乃
牛松

海
右之

雖
之窮

深
出居

社
湖龜

新
準次

録
之出

河
之出

雨
準次

海
無窮

海
右之

海
出居

海
湖龜

海
牛松

〜中に進〜梅のよ枝哉

月ハ新瑞〜新 香五

〜海〜小梅乃海苔の葉〜女蘇

〜り〜山〜頰と葉〜吐花

〜照〜輝〜節〜肩山

〜進〜引〜ち〜根 其女

各録

掛念に暮〜や〜山山南 頁山

月のち〜心〜根 其女

月夜〜心〜玉子玉子 吐花

えあ〜んハ〜葉乃花 香五

たハ〜中〜女蘇

同

海原

か〜あや〜都因

端端の〜素ね

無
何
本園
新
山

八句表

社
化
坊

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

心
止
く
く
く
く
く
く
く
く

山々 新いきく 遠近 知声

各録

中りきくくときれく凡ふ柳山 群山

藤 びやうちりく 女 二貫

やき飛まれ柳解つくくまも哉 山英

ゆい浮やちりくくちりくはくは 其川

りまのまやたのま七巻 知声

知氣ふふ小義録の貝拾へ 貫里

主解や新その平に流のま 其回

同

豊永

この物

可洗

能しんきふまむさくう部系

アサギ 葱のまらりれぬ翅板 里風

まふくくま入は語ま 作死

各録

くくまと條てハくくまふれ 内ら

主解や萩芝の平に海の手 其回

同

豊永

この物

可洗

敵しんうぬをむさうく部系

^{アキ}葱の食うられぬ翅板 里風

名あ〜るる家入 法多 作死

名録

〜と條でハ〜を〜る 丙ら

古しきとて 知雄

内 捨て 凡そ 素習

字法 の 川 船 上 船 石

料 の 手 扱 馬 小 鞍 斐 雨

幸 ハ 積 丸 と 氣 上 老 少 舟 之 扱

名録

天水居

舟 扱 舟 小 舟 有 奥

某 手 の 代 と 船 田 扱 悠 々

連中

山崎やあゝすふほれ獲に癖 了夫

中よりの傍、ききし 押了紙 里風

長空のくわしきまにさるるを 児冠

同 ちき

八句表 蓬生舎 青雨

秋のそらきりさきりさきあしき

新ふふふ夕月乃眉 悠々

かたよりききりききききききき 有奥

古いあしききききききききき 知雄

内捨と凡ききききききききき 素習

空法の川舟と雲あふききき 紙石

野のまゆききききききききき 琴雨

幸ハ 積れと氣あふききききき 之板

各録

鳥 ねえいききききききききき 天水居 有奥

素更の代とききききききききき 悠々

神ホリのききけしきこり月と謙

想坡

耳アサにさやくはうとさきく

山去坊

法中乃くみの世病く

沙乙

烈くはあつちとちの白

可白

世ハはあくの中とて君

智象

家より酒をささるみりあ

た菜

又ケチ地くはくすのうけ

右礎

川白くも廣く小暑と能く乐乎

天地と雲と花や月と草
加草雨

涼風や松の影に花の上
智教

るゝさかぢりささや文衣
玉智

花あしや軒窓と押く丁花
花石

楓枝月と影と花と
二枝

同所

十句書
貞野居
六

夕紅の裾引捨むらさ

ゆきき花とささ月と
花枝

花にささ花とささ
花枝

花の影にささ
花枝

花の影にささ
花枝

花の影にささ
花枝

花の影にささ
花枝

花の影にささ
花枝

花の影にささ
花枝

五月のほろしきや暮の日 可白

五月雨や露の透ほく梅の五を 撫坂

名月や雲の家に借るねさ大 示年

ねとあもるふささ千のほ様か 集和

凡の音ハそと矢うう夕はくせ 声阿

夕月や凡のそとくく考系 荷凡

月

う知

秋風行 一折

道門くろれ 春門乃甲植成 廿三
 清音乃馬木に糸く下く糸 一宮 了支
 吹流く字と歌くけくく 如 志之
 白す権 糸んく知れく糸の蝶 素由
 月為く一糸く糸くや渡月橋 智察
 水きの糸りた 柳糸 柳志

同 久礼

六句表

文在

曙や橋くけくまのま

移も一房乃糸かえと送れ 去留

真極と糸法のみとく糸はま 一歩

糸くけにけり糸人の 月戸

遠糸所く武糸の糸も月け 鳥存

若まきし世の中 糸も糸中 筆

糸録

道門くろれ東門乃田植哉 サキヤ

津音乃馬木に糸く下 一宮 了支

吹流く字と歌く 田 けり

白す握 糸んく知れきり糸の蝶 糸由

月為く一糸も糸く ケキコ や渡月橋 智燈

水音の糸りに 柳 糸 後了那 柳志

文礼

六句表

文礼

曙や橋く 文 けり

移も一房乃糸糸 去 留

真極く糸法のみ 一 歩

糸く ツシナ 糸の 月 戸

遠糸所く 馬 糸の 馬 糸

著 筆 糸の 筆 糸

名録

やまのむちうらや 垣根のちね 鳥孝

垣根の かゝるゝゝゝや 力石 月戸

まの野とまゝと 樽こト子や 田鹿 一歩

の里乃 新くく 浩く 水了那 玄留

同 下草

こつ物

里遊

多舞の 新地のちよれちんく

新くく 水小 妹、 以 羅 里初

屋のの男くくくくくくくくくく 山遊

名録

家入のち屋やかゝるゝ 瘧症の跡 里朝

くろくくく 子くく 雀くくく や 益の月 里都

娘のむ 追くくく や 壁の 汐千 浮 山遊

同 久保川

徳あや 漕行 船乃 春くくく 左流

豆売の 庭くくく や 秋の 風 二仙

春の男〜遊

名録

数入のち〜里朝

〜里都

浪のむ〜遊

同 久保川

概あや漕舟〜左流

夏売の庭〜二仙

目のち〜〜〜
枝也

○

曙と栞りに大雲〜
可喜

〜〜〜や障子〜
佳文

夕顔〜
完里

〜〜〜
左川

八句表

示只仁

〜〜下々の物〜
大鉢

〜〜〜
帰奇

おら〜
蘭産

〜〜
季由

〜〜
花友

余所の口舌とを察してすく
尾白

月ハ〜
季白

〜
古松

名録

舞臺のちりきり初れあや唐の声 由奇

鬼斬や女ら道の机 え 素白

折れ鳴と糸の静あまの藤のむ 季由

淡月や木柵の付む仁王門 花中

六月や砦のまのけられたる月 尾白

あゝ花の言あかり 草の那 古松

糸づくや浮世の幸ハさるる年 蘭雀

伊豫 川口

名録

春の月 若く蕉のむに凡情あり 吾彦

向きの中、柳一乃 素下り那 素英

出雲

名録

吹しそる 熟材さるや秋のそる 仙竹

夜露如や月陰より村の雨 見山

暁乃川 芳くさるるをさるる 素琴

山と岩 ありて 雲や霧の月 ねい 琴の雨

方丈石見

名録

鴨 多し 如あまた 秋の月 おの 芦花

秋 雪とて 柿の葉 留 柳水

雨 ぬ月 雨の夜 うさ 里明

大根の折 大田 鳴泉

山はく 冒さく 磯 鯛 漁山

宇 晴 暮さく 凡の 林下

肥後 限うた宮村

八句表 此雄

篇中に 移 ワ 通の カ ち ク 勢 キ 多 ク

あし 偶 ウツ 暮く 復山 乃 浪 李川

海 世七六 韜と ち 龍 龍 龍

ち 洞 洞 洞 洞 洞 洞

お 素 素 素 素 素 素

山と岩あはれさるる 雲や霧の月 ねい 琴の雨

方々石見

名録

鳴き声あはれた 秋の月 むい 芦花

秋の雪とてゆき 暮るまゝ 柗水

雨の月 雨の夜 ノサト 里明

大根の新しき 大田 鳴泉

山はく霞さくさく 磯 潮 浪山

宇治 春の風 限の宮 林下

肥後

八句表

此雄

舞中に 移 ワ 遊 ユ の ウ 姿 サ 姿 サ

あはれ 偶 ウツ 々々 復 フ 山 ヤマ 乃 ノ 浪 ナミ 李川

海 ウミ 世 ヨ 七 ナナ 六 ム 韜 タウ と ト き キ 一 イチ 糸 イト 尾 ビ 琴 シン

あはれ 秀 ヒメ の ノ 姿 サ 新 ニ 一 イチ 糸 イト 洞 ドウ 甫 フ

あはれ 姿 サ と ト ハ ハ 姿 サ と ト あ ア や ヤ 少 シ 一 イチ 糸 イト 素 ソ 韜 タウ

舞う ちりやうに 澄秋の夜 二梅

テクルテ 鞞に 糸を じり じり 糸 界 芝月

舞う ちりやうに 澄秋の夜 二梅

一 ちりやうに 澄秋の夜 二梅

ちりやうに 澄秋の夜 二梅

各録

ちりやうに 澄秋の夜 二梅

ちりやうに 澄秋の夜 二梅

十 ちりやうに 澄秋の夜 二梅

ちりやうに 澄秋の夜 二梅

凡 ちりやうに 澄秋の夜 二梅

ちりやうに 澄秋の夜 二梅

引 ちりやうに 澄秋の夜 二梅

花 ちりやうに 澄秋の夜 二梅

同 舞本

八句表

おきし作りのりまの

隣河

名録

牛皮七帯流るる様をし 田文

取も持乃取凡やふりし腰を盡し 清河

清きり 神の御まや初 何由 朴人

みりあのみれきぬく金持は 在伊

初ふ凡のちるやふりぬる 四川

名取やふりし 何れも日の白し 更破

美ゆれハ〜多〜

小妻 長 余 竹 三 様 一 心 止 壘 壘

入 船 乃 神 保 二 終 心 終 心 止 壘 壘 田 文

新 古 の 合 り ぬ 一 心 止 壘 壘 田 文

鬼 王 に 喰 け け け け 一 心 止 壘 壘 田 文

掃 の 町 け け け け 一 心 止 壘 壘 田 文

を 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

ね 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

名録

生 皮 心 帯 一 心 止 壘 壘 田 文

取 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

信 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

初 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

初 一 心 止 壘 壘 一 心 止 壘 壘 田 文

桐子イノコロとねんあまたさきの白豊水

乃まろくサ萩あらく穂為似星

今更の照るゆきゆけふ家々母玉露

柳枝と流して行雲に強飯路端

神あし不首の和歌のむねく律呂

あしあられも乃不子物丸紙筆

名録

靴ツミの飛ツサる海ぬをわ系の中芙蓉柳

小島女々 初々何様うふ 丘弓

葉ハ 曉に 新けく ぬきしきふ 百花

不束れ 移乃 葉ありきあり 波文

母も ちかみ 養人の 敷や 益 磯 旅 推

切妻の ちかみ けい水 哉 初古

れ 妻や 良き 傳人の 侍 樓門 傘 研

白く ちかみ 氣の けい 通の 莖^{スミシ}うふ 尻 光

養 ちかみ なる 人 成りく ぬき 葉 笛

林 ちかみ や 敷と 白れ 枇杷の 家 可 籠

隣 ちかみ 家に あり 子や 妻 柳 舎

河 木も ちかみ ちかみ けい 汁 烏 秋

龜の子 あり 遠の けい 岩の けい 源 芦 樹

鶴 ちかみ や けい 乃 ちかみ 乃 ハ 岩の 上 野 雪

川 ちかみ ちかみ ちかみ 今 ちかみ の 音 双 蝶

声 ちかみ けい ちかみ 乃 ちかみ 乃 新 田 植 笠 芦 雀

れ ちかみ 乃 ちかみ 子 ちかみ ちかみ 乃 ちかみ 乃 熟 丹 水

ねんくのみさす 吧のおまらる 凡至

雲のさす乃伽まはるく 可水

雲くくみくにまの入り高きん 妻雨

波せの強しきれぬ綿弓 琴松

月くくくと碎く母、まかりさ 落子

舟まのの目もうらむ 新 之 笑

月文くくもふあきく月のは 甘雪

樹くく啼くかきまきに虫の音 可祝

種神

廿六

地 葉 づ せ る へ び しく 養 育 法 石 城

こ ち ち ち 胸 ね け の 堂 ち 吞 樂

夏 の こ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 秀 玉

冬 天 ま じ め せ じ め 何 時 如 月

坂 越 へ と 巻 乃 ち ち ち ち 孫 栗 毛 胡 吉

余 何 目 ち ち ち 神 の 綿 木 自 秀

春 沙 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 孤 月

山 葵 と き ち ち 翅 板 ち ち 里 境

春 人 の ち ち ち ち ち ち 凡 至

春 の ち ち 乃 伽 ち ち ち 可 水

雲 ち ち ち ち ち ち ち ち 麦 雨

海 世 の 弦 ち ち ち ち 琴 松

月 ち ち ち ち ち ち ち 落 子

舟 ち ち ち ち ち ち ち ち 之 矢

秋 文 ち ち ち ち ち ち ち 月 の 丘 其 雪

樹 ち ち ち ち ち ち ち ち 可 祝

後 驗者と生似く龍泉社の四天王 仙洛

吸つたたと粉の火打えし人志 菊尾

翁 毎にむとほき色の玉糸帯 一甫

漸 初より一 流のきとほ 二香

各 禄

科 理の舞もあやらるる鯛 僧 夏雪

書 又入や行くを吸む化秘水 孤月

香 園一の方祈ひよりの香 秀玉

香 煙乃吸之りや 如月

沖 雲よて流るる 一甫

翁 亦や後も目を物る 二香

刻 初魏ほ 里曉

換 了の吸 琴呂

梅 鳴り馬乃毛を押 僧 日南江 夏雨

乾 しく傘す 自秀

そ 石城

まふやほ礎のこころ 小孟 春樂

秋の味をわたりくろく 稗草汁 花系

あつあつ 松の葉のゆき 秋 五琴

疎くや遠りぬふくし ねらり むえ

月しゆく ねらり 秋の山 来之

きの葉や月にく 声のこゝろ 仙洛

東まやふくく 梅のこころ 輪 凡玉

ねん人の葉しゆく ねらり 月 蓓子

田と指しゆく 仙合ふ 葉子 胡音

葉かゆく 葉の行や夕涼み 里産

穂穂さる 運ふ 小祠の糸糸 塩亀

くろく 葉や かり 田乃 株と 似梅

穂書や 明く 糸糸 網代 鹿心

雲ちゆく 澄れ や 糸糸 凡左

雨ゆ 乃 瑞 離れ 梅のむ 之免

近くゆく 鹿のほろ 枯れ 可也

一里乃... 菊厄

一里乃... 葵

杜... 松

鯉... 可祝

五月... 翫二

...

...

一... 葵

...

...

...

...

...

...

...

名録

...

...

弓張乃細きくくや考る糸文水

小巾海くまきぬるやうくと雨香

稲妻の流るるいりや世の綿糸田

流の月をくに寝ててそなたを梅宇

美く代や事い子の子ぐと後もは麦後

流雲小矢^{クラ}を借るやむの山五枕

傾ヤトく又もあそび新子あは英板

田布施
波野

六句表

竿頭

水かきあれた友とくそくそくあつ月

ろくろくは 秋乃和家の浦波 雀二

せうろくふ素人角かも産れり 梅先

かりけよるゆる 腰の較鞘 菊丈

秋成とほつる 糸乃ちうせゝまふ 半里

朝の葛海乃節句そまひ 泉玉

名録

孤舟

春風や冬乃くの絶層

冠正しつゝ花乃後所 巴陵

菊月と世余れ湖ありて海に 緑波

と移りて啼けハ路も鳴り 雨柳

さぬくハ石乃 巻ても甲子 膳之

此に寄れあかきと云ふも 綉虎

名録

月をとりて塔もるに 復本集 綉虎

道心つゝつゝ知る月の安き子ハ 雨柳

秋の夜や稚子のよに挿る 孤舟

晴一軒をさす業の心さる乃 孫波

美しき方初に暮るや暮り 膳之

雲晴く詠ふ雨ぬる柳 巴陵

回

久賀

八句表

白物乃あしの世や田ねる色

喰しすふよるの如

梳水

托しりち常より牛しを供する

清くの種と遠くを家寺

物賣れ悲乃船をけする者

おもしろく酔うくの雲の

月明く布面のやしろに結ぶ

凡しきせむ下ふの種

長門 名取

各録

多に遠くもやき草にこころあふ 可澄

晴物もや雲乃絶るれ月とや 百馬

細まハゆきもや梅のむ 二発

ま物や人とはせりし乃山 一瓢

物ほりもききもはれぬ 真交

うし波とせしむる音の入りか 其登

何し丁や之致の音乃るまほしむ 五音

大とんしんさかし里や秋の音 産里

何處へ寝て帰るるうらまゝの音 雨琴

味くやちりりわらわらおの音 其瓢

長作 ほん馬伏

名録

長梅や島ハまゝし 鳴れ癖 鬼角



